

Message

自分自身の闘病経験をふまえて、子宮頸がんなど
女性特有のがんの患者支援や予防啓発活動に取り組む
河村裕美さんからメッセージをいただきました。

河村 裕美さん

認定NPO法人 オレンジティ(女性特有のがんのセルフヘルプグループ)理事長

熱海市出身。静岡県庁職員。社会福祉士・PRプランナー。1999年7月結婚、1週間後に子宮頸がんを宣告され治療。闘病中の経験から、患者サポートの重要性を認識し、2002年にサポートグループ「オレンジティ」を設立。2004年にNPO法人化し、患者サポートに加え、一般向けに検診啓発も始める。2009年4月にティール&ホワイトリボンプロジェクトを設立。2013年5月に甲状腺がんを治療。全国向けに子宮頸がんの啓発を開始。現在は、講演、セミナーの開催など企業、医療機関と連携し、患者のサポートに加え、地域格差や女性特有のがんの予防啓発にも取り組んでいる。
オレンジティホームページ <http://o-tea.org/> Photo: Copyright NPO OREANGETEA



結婚1週間後のがん宣告

私が子宮頸がんを告げられたのは1999年7月32歳のとき、結婚して1週間後のことでした。自覚症状は全くなかったのに病状は重く、8月に子宮、卵巣、リンパ節などを取る広汎子宮全摘手術を受け、子どもを産めなくなりました。卵子を凍結できないか悩み、離婚も考えましたが、「がんは治る時代だから、一緒に生きていこう」という夫の言葉に救われました。

手術後2カ月で仕事に復帰し、静岡県職員として働きながら、2002年に女性特有のがんのサポートグループ「オレンジティ」を設立しました。患者同士が悩みや苦しみを分かち合う活動を通して、あらためて健康なときには思いもよらない悩みの多さに気づかされました。

※オレンジティの協力で富山県では昨年「チューリップティ」が誕生し活動しています。

生涯続く後遺症の苦しみ

外見からはわかりませんが、私はずっと手術の後遺症に苦しんでいます。排尿・排便障害のためトイレに行きたい感覚がなく、自分で時間を見計らって排泄しています。また卵巣を切除したので女性ホルモンの分泌がなくなり、32歳で更年期障害の症状が現れました。さらにリンパ節の切除によるリンパ浮腫(ふしゅ)で足がむくみ、毎日マッサージが欠かせません。専用の弾性ストッキングは1足2万円近い高額です。

経済的な負担は大きな問題です。東京へ通院していたので、治療費のほかに、自分だけでなく付き添う家族の交通費、宿泊費などが必要でした。後遺症のケアにも生涯お金がかかります。就職した頃に親に勧められて入った保険のありがたさを、病気になって実感しました。

健康な今から自分を守って

子宮頸がんはワクチン接種や検診で予防でき、早期発見なら子宮を温存して手術し治療できます。その場合は後遺症もほとんどなく、費用もそれほどかかりません。この事実をより多くの女性たちに伝えたいと思います。

私は母になる夢も、両親に孫を抱かせてあげることも、かないませんでした。富山のみなさん、子宮頸がんの予防と早期発見の大切さを知って、健康な今から自己防衛してください。それはあなたの家族や大切な人を守ることにつながります。私が味わった苦しみを、私はもう誰にも味わってほしくないのです。

いま知ってほしい、
子宮頸がんのこと。

日本では年間約9800人の女性が子宮頸がんにかかり、約2700人が亡くなっています。

結婚や妊娠・出産のピークである20〜30代で発症が急増し、

若い世代の女性が最も注意すべき病気といえますが、

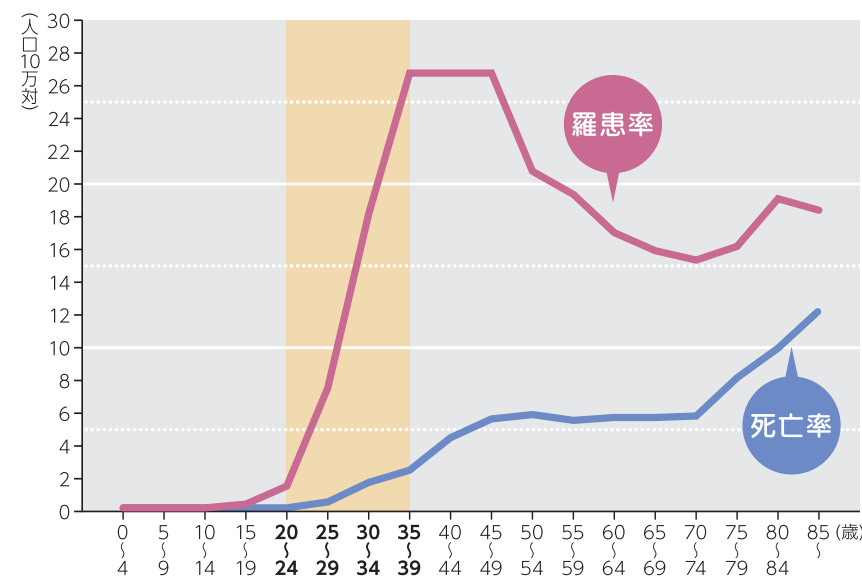
ワクチンや検診で予防でき、早期発見によって治療できる病気でもあります。

かけがえない子宮と命を守り、未来へずっと笑顔で歩んで行けるように、

もっと子宮頸がんを知ってください。

(参考:独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター)

子宮頸がんの罹患率と死亡率 (罹患率:2008年データ、死亡率:2011年データ)
※出典:独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス



子宮頸がんとは？

● 子宮入り口付近の頸部(けいぶ)にできるがんです。

● 初期には自覚症状がなく、不正出血などに気づいたときは、すでに進行している場合が少なくありません。

発症の原因は？

● ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因です。

● HPVは女性の約80%が性交渉で感染するありふれたウイルスです。

● 感染しても免疫が働いて、ほとんどは自然に排除されます。

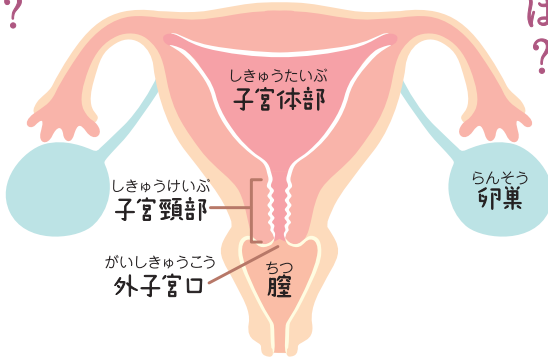
● まれに感染が持続すると、数年かかってもがん細胞になると考えられます。

がんから体を守るには？

● 検診で、がんになる前の段階で細胞の異常を発見し治療できます。早期発見・早期治療のため、年に1度は検診を受けましょう。

● 予防ワクチンで、HPVの感染を防ぐことができます。性体験前の10代での接種が効果的ですが、セクシャルデビューしたら10代からでも検診を受けましょう。

※ワクチン接種により副反応が起きる場合がありますので医師に相談・確認してください。



〈主催〉北日本新聞社
〈後援〉富山県、富山県教育委員会、富山県医師会、富山県産婦人科医会、富山県小児科医会、富山県商工会議所連合会、認定NPO法人 オレンジティ(女性特有のがんのセルフヘルプグループ)

協賛社

AXA アクサ生命
redefining / standards

産科・婦人科 かんすいこうえん レディースクリニック
KANBU-KOUEN LADIES CLINIC

大王製紙株式会社

富山第一ホテル
美客家電のパイオニア
YA-MAN

キャンペーンの内容は専用サイトでもご覧いただけます。
北日本新聞 未来への約束 検索
<http://woman.kp-kikaku.jp>
北日本新聞ウェブ新聞webunからもアクセスできます。